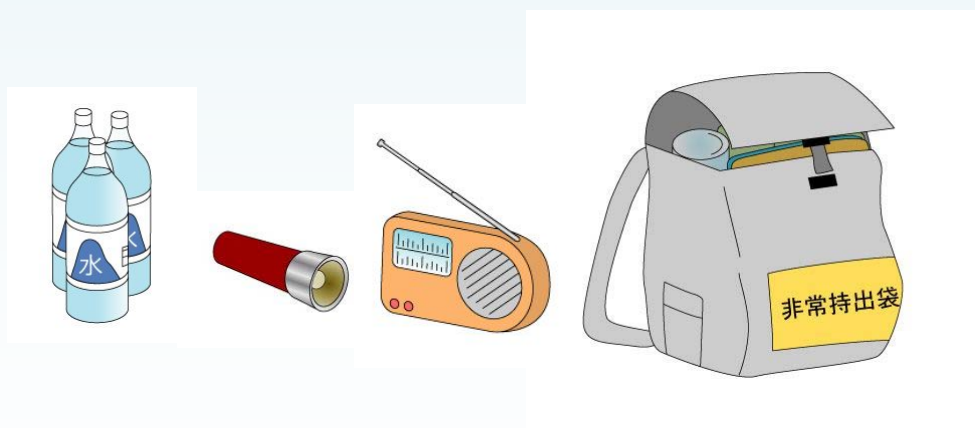


増田西地区 防災マニュアル

「地域ぐるみの防災体制」
自分たちの地域は自分たちで守る

ひもを通して目立つところにおきましょう
家族で定期的に確認しましょう



名取市・増田西地区

目 次

1. はじめに -----	P 1
2. 増田西地区について -----	P 1
3. 増田西地区の過去の災害について -----	P 2
4. 増田西地区の災害対応計画 -----	P 3
5. 増田西地区の災害予防計画 -----	P 8
6. 避難所の開設・運営への協力について -----	P 1 0
7. 増田西地区防災マップ-----	P 1 1
8. 平成 25 年～26 年の災害と教訓 -----	P 1 2
9. 我が家の防災メモ-----	P 1 3

増田西地区の避難場所など

1 はじめに

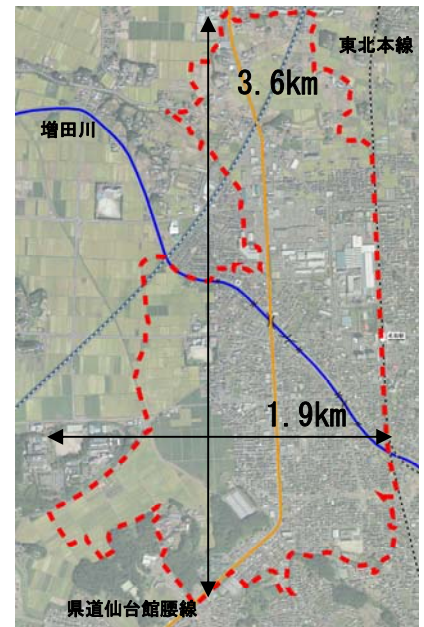
名取市では、東日本大震災の教訓や豪雨災害の経験を踏まえ、平成 25 年 12 月に自分の命は自分で守ることを基本とした防災・減災への取り組みを示した「名取市民防災マニュアル」を作成し、全世帯に配布しましたが、大規模災害による被害を軽減するためには、地域の実情に応じた防災対策を、名取市と地域の皆さんが一体となって実施していくことが重要です。

このマニュアルは、名取市が地域の皆さん（区長さん、町内会長さんなど）と一緒に作成したもので、増田西地区で想定する災害やその対応方法などを示したものです。

2 増田西地区について

地形・地勢

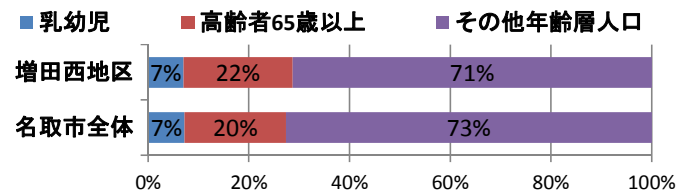
- 増田西地区は、面積が 3.74km²、東西に約 1.9km、南北に約 3.6km で、中央部を増田川が流れています。
- 地区の標高は概ね 5～9 m と平坦で、洪水で浸水しやすい地形です。
- また、比較的地盤が弱く、地震の際は揺れが大きくなる傾向があります。
- 市の中央部に位置し、名取駅の西側にはサッポロビールや仙台ニコンの工場が、県道仙台館腰線沿いなどに大型スーパーなどの商業施設があります。



世帯・人口

- 増田西地区は、世帯数 4,619 世帯、人口 11,161 人を有しています。増田地区について人口が多い地区です。
- 年齢構成は、約 5 人に 1 人が 65 歳以上の高齢者です。

増田西地区の年齢層別人口



増田西地区の世帯・人口

地区名	世帯数	人口	乳幼児	高齢者 65 歳以上	その他年齢層人口
増田西地区	4,619	11,161	781	2,422	7,958
名取市全体	28,561	76,107	5,471	15,347	55,289

平成 26 年 12 月末現在

3 増田西地区の過去の災害について

災害名称及び 災害発生年月日	災害による被害状況と当時の状況
宮城県沖地震 昭和 53 年 6 月 12 日 (仙台市で震度 5)	ブロック塀の倒壊などによる死者、建物被害による多くの負傷者が発生し、都市ガスなどライフラインが停止しました。名取市では、負傷者 200 人、全壊 17 棟、半壊 61 棟、一部損壊 1,623 棟の被害がありました。
8・5 豪雨 昭和 61 年 8 月 5 日 (累計雨量 400 ミリ)	台風 10 号の進路に、海上から多量の水分を含む東風が吹き込んだことにより、宮城県で記録的な豪雨となりました。増田西地区では床上浸水 120 世帯 393 人、床下浸水 367 世帯 1,208 人の被害がありました。
9・22 集中豪雨 平成 6 年 9 月 22 日 (時間雨量 84 ミリ、 累計雨量 478 ミリ)	樽水ダムが満水となり、増田川がはん濫したほか、川内沢川、志賀沢川などの中小河川がはん濫しました。増田西地区では床上浸水 414 世帯 1,329 人、床下浸水 721 世帯 2,264 人の被害がありました。 <ul style="list-style-type: none"> ・収穫時期のため稲わらが水路に詰まり被害が拡大しました。 ・増田西地区はほとんどで浸水しました。 ・箱塚で土砂崩れがありました。 ・胸くらいの高さまで浸水しました。
東日本大震災 平成 23 年 3 月 11 日 (名取市で震度 6 強)	マグニチュード 9.0 の巨大地震により、強い揺れが約 3 分間継続し、巨大津波により市内で 911 人が犠牲になりました。4 月 7 日の深夜には、名取市で震度 6 弱の余震が発生 <ul style="list-style-type: none"> ・家具の転倒、屋根瓦の破損等住宅被害がありました。 ・地震による液状化でマンホールが浮き上がりました。 ・道路と橋の境目で段差ができました。 ・都市ガス、電気が止まりました。 ・電話、メールがつながりにくくなりました。 ・倒れたブロック塀や切れた電線が道路を塞ぎました。



平成 6 年 9 月 22 日 集中豪雨災害時
 増田川増水による法面崩落 (増田西地区大手町付近)



平成 6 年 9 月 22 日 集中豪雨災害時
 名取市の様子

地区で想定する災害

- ・大雨や集中豪雨による増田川および用水路の氾濫と浸水（ほぼ地区全体）
- ・直下型地震の地震動による住宅被害や液状化（地区全体）
- ・直下型地震等によるブロック塀の倒壊や火災（特に住宅密集地）

9・22 集中豪雨災害の経験から、増田西地区では水害に対する意識が高い傾向にあります。近年の異常気象により、各地で時間雨量 100 ミリを超える経験したことのない豪雨が多発していることから、9・22 集中豪雨災害を上回る規模の水害が発生することも考えられます。

阪神・淡路大震災や新潟中越地震のように建物に甚大な被害を与える直下型地震を引き起こす断層は日本中どこにあってもおかしくないといわれていることから、大規模な直下型地震に対する備えも必要です。

●海溝型地震と直下型地震

海溝型地震	海で発生する地震。津波を伴うことがある。直下型地震と比較して建物被害は少ない。
直下型地震	内陸で発生する地震。震源が近い揺れが大きく、建物に甚大な被害をもたらす。余震が大きい。

災害から命を守るために

自分の命は自分で守る！

災害が発生したら「名取市民防災マニュアル」と「増田西地区防災マニュアル」に基づいて、まず「自分の命は自分で守る」ように対応しましょう。

家族や町内会で避難場所を確認しましょう！

11 ページの「増田西地区防災マップ」で、浸水などの危険な場所、施設や公園など災害時に使える場所を確認し、日頃から家族で避難場所、集合場所、安否確認方法などを確認しておきましょう。

風水害時の対応

■対応の基本

- ・建物の2階以上に避難する。
- ・低い土地の平屋やがけの近くなど不安がある場合は、早めに避難する。
- ・浸水が始まってからの避難は極力避ける。

1 風水害への対応は情報収集から

集中豪雨、ゲリラ豪雨、落雷、竜巻などの風水害は、「大気の状態が非常に不安定になっているとき」に発生します。

普段からテレビ、ラジオなどの気象情報に注意し、「大気の状態が非常に不安定になっている」、「今年最大級の台風（寒波）」などの表現があったときは、情報を収集し、**台風や豪雨、大雪などが予想される場合、不要な外出は極力避ける。**

大規模な風水害が予想される場合は、停電や濁り水などに備え、備蓄品を確認する。



テレビ



ラジオ

●気象情報

土砂災害警戒情報	土砂災害の危険性が高まっているときに発表されます。 土砂災害の危険性がある場所では、自主避難の目安です。
記録的短時間大雨情報	時間雨量 100 mmを超える雨が降ったときに発表されます。 市内で災害発生の危険性が非常に高まっています。
大雨特別警報	大雨により重大な災害が予想されるときに発表されます。 直ちに命を守る行動が必要となります。
はん濫危険情報	河川はん濫のおそれがあるときに発表されます。 河川の近くなどでは、早めの避難を行うことが必要です。

2 積乱雲の予兆現象を見たら、直ちに屋内に避難する

集中豪雨、ゲリラ豪雨、落雷、竜巻の原因は、積乱雲（入道雲）です。

●積乱雲の予兆現象

- ・辺りが急に暗くなる……巨大な積乱雲が空をさえぎるため
- ・雷が聞こえる……巨大な積乱雲の下で落雷が集中するため
- ・冷たい風を感じる……積乱雲の下の重い冷気が、暖かい側に流れ出すため

3 避難指示、避難勧告、避難準備情報

名取市では、気象情報、樽水ダムの洪水調節容量、河川の水位、降雨の状況から判断し、避難指示や避難勧告、避難準備情報を発表します。

エリアメールやテレビのテロップなどで市からの避難勧告を知った場合は、「なとらじFM80.1MHz」で市からの情報を得てください。



大手町5丁目付近 大手橋
橋脚水位表示板

4 最適な避難行動を！

増田川のはん濫などにより浸水被害のおそれがある場合、自宅の2階に避難するか、近くの2階建て以上の建物に避難しましょう。

増田西地区は、ほとんどが浸水や冠水する可能性があります。他所の地区にいて自宅に戻れない場合は、無理に避難せず、安全な建物にとどまることも必要です。

●樽水ダムと放流サイレンについて

樽水ダムは、洪水調節容量200万トンを有し、1秒間に最大40トンを超える流入量をダムに貯めること（洪水調節）により、洪水になることを防ぎますが、大雨によりダムへの流入が増え満水になると、洪水調節を行えず、増田川がはん濫します。

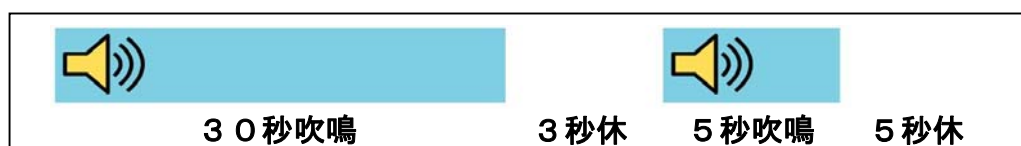
樽水ダムの状況と増田川の水位（上増田観測所）は、次により確認できます。

宮城県土木部総合情報システム

<http://www.dobokusougou.pref.miyagi.jp/miyagi/servlet/Gamen30Servlet>

増田西地区には手倉田警報所（名取市手倉田字堰根469）があり、大雨などで樽水ダムから水を流すときは、放流の合図としてサイレンが鳴ります。

サイレンが聞こえたら、川に近づかないようにしましょう。



サイレンの吹鳴パターン（3回繰り返し）

地震災害時の対応

■対応の基本

- ・まずは自分の身を守る。
- ・揺れが収まり安全が確保できたら、火元の確認、隣近所への声掛け。
- ・町内会・自主防災組織が自主防災活動を行う。

1 緊急地震速報や揺れを感じたら 自分の身を守る



2 揺れが収まったら

- (1) 火元や家族の安全を確認する。
- (2) 隣近所に声をかける。
- (3) 災害情報を入手する。

※ ラジオなどで情報を得て、震源が直下なら大きな余震に備えましょう。

3 避難の判断

- (1) 家屋が倒壊しそうな場合は、指定避難所に避難
- (2) 不安な場合は、一時避難場所に集まり、余震が収まったら家に戻る。
- (3) 避難の際は、通電火災に備えブレーカーを下ろし、ガスの元栓を閉め、非常持出品を持ちましょう。

※ 「通電火災」は、地震による停電が復旧した際、電気製品が再稼動したり、傷ついた電気コードがショートして、近くの燃えやすい物に引火する現象です。

4 町内会・自主防災組織の活動

●自主防災組織の意義

阪神・淡路大震災では、地域住民が協力し初期消火で延焼を防ぎ、倒壊家屋から救助活動を行い多くの命を救いました。要救助者の8割を地域住民が救助したのです。

大規模な地震が発生したときは、家屋の倒壊、火災の発生、倒壊物による道路の通行止め、信号の停止による渋滞などが発生し、行政の救助に時間を要することになります。

消防機関などの公助の活動が到着するまで、地域住民が協力し、防災活動を行うことにより、地域の被害を軽減することができるのです。

地域の防災体制の役割により、次の初動活動をすることが重要です。

(1) 安否確認、避難誘導

大きな地震が発生した場合は、まず安否確認です。
日頃から安否確認の体制を整備しましょう。

(2) 初期消火、救出・救護活動

消火器などを使い、初期消火を行いましょ。う。
救出活動を行う場合は、余震に注意しましょ。う。
防災用資機材などにより初期消火や救出・救護訓練を行いましょ。う。



(3) 情報収集や情報伝達

被害状況を把握し、市に救助要請を行いましょ。う。
市からの情報を掲示するなど、情報伝達を行いましょ。う。

(4) 集会所など一時避難所の開設、炊き出し

集会所や公園などに避難し、余震が収まるのを待ちましょ。う。
防災用資機材を活用し、炊き出しをしましょ。う。



(5) 指定避難所の運営協力、災害時要支援者の支援

指定避難所での協力や災害時要支援者の支援を行いましょ。う。

●東日本大震災時の増田西地区の共助

自主防災組織や町内会、民生委員が安否確認を行いました。
炊き出しをして、水や食料を配布した組織がありました。
防災資機材を準備していた組織では、発電機が非常に役に立ちました。
避難所で給食などの支援や防犯パトロール、被災家庭のダンスを起こした組織もありました。
なお、東日本大震災後、組織やマニュアルを見直したり、必要性を感じ自主防災組織を設立した町内会がありました。

5 海の近くでは津波の用心

- (1) 海岸部で大きな揺れや長い揺れを感じたら、津波情報を得て高いところや遠くにすぐ避難する。
- (2) 津波は川を遡上するので、川から離れることも大切です。

※ 東日本大震災では、津波が増田川を遡上し、増田西大橋付近まで自動車が流れてきました。



5 増田西地区の災害予防計画

みんなで災害予防活動に取り組みましょう。

個人でできること（自助）～自分の命は自分で守る～

1 防災に関する知識及び技術の修得

防災訓練や防災講座に参加し、防災に関する知識や技術を修得しましょう。

2 災害時のシミュレーション・家族の話し合い

災害が起きたときの対応について家族で話し合い、避難方法や避難場所、電話が繋がらなくなったときの集合場所などを事前に決めておきましょう。

3 非常持出品と災害備蓄品の準備

停電や断水などに備え、非常持出品と災害備蓄品を準備しましょう。



家具等の転倒

4 転倒防止対策の実施等

特に寝室や脱出経路は、重点的に実施しましょう。

昭和 56 年 5 月 31 日以前の建物は耐震診断を受けましょう。名取市では耐震診断の支援を実施しています。



5 住宅用火災警報器・消火器の設置

火災に備え住宅用火災警報器と消火器を設置しましょう。

6 近所とのコミュニケーション

いざという時に協力しあえるよう、日頃から近所の方とコミュニケーションをとり、声を掛け合える関係を築きましょう。

町内会・自主防災組織でできること（共助）～自分たちの地域は自分たちで守る～

1 町内会単位で一時避難場所を確保

指定避難所が遠い場合や道路が寸断された場合、近くの一時避難場所に避難することになります。町内会単位で、集会所や公園など、地域の一時避難場所を定めましょう。

2 災害時の役割分担や活動マニュアルの確認

役員が交代した際など、安否確認、避難誘導などの役割分担や活動手順を確認しましょう。

3 防災訓練や啓発の実施

各町内会で年1回、安否確認や避難訓練、初期消火や応急手当、炊出しなどの訓練、防災マップや防災マニュアルの学習、防災講話などを実施しましょう。

4 防災資機材の整備

集会所や公園など地域の一時避難場所に防災資機材を整備し、使用できるようにしておきましょう。

5 災害時要支援者への支援

お年寄りなど、災害時に支援が必要な人を確認しておきましょう。



増田西地区でできること（共助）～地域ぐるみの防災体制をつくる～

町内会・自主防災組織の連絡協議会を設立し、増田西公民館を拠点に地区全体で協力できる体制を作りましょう。

1 地区防災体制の構築

災害時の地区の活動、連絡体制について事前に定めておきましょう。

2 地区防災訓練の実施

避難所となる学校や公民館で防災訓練を実施しましょう。

3 地区防災講座・防災研修会の実施

地区防災講座や防災研修を企画し、情報交換を行うことにより自主防災活動のさらなる向上を目指しましょう。

4 近隣地区との連携

名取が丘など近隣地区と連携し、災害時に助けあいましょう。

●東日本大震災時の増田西地区の避難所

東日本大震災時、増田西地区では増田西小学校と増田西公民館、第一中学校が避難所になりました。避難者は最大で、増田西小学校が600人、増田西公民館が300人、第一中学校が837人で、津波により沿岸部から避難した人が少なくありませんでした。

避難者は水道と電気が復旧すると減少しましたが、避難を余儀なくされた人たちは、役割分担を定め、避難生活を続けました。

避難所では、集団生活のルールを定め、避難者が食事や清掃などの役割を分担しました。巡回診療や健康管理、感染症の予防などの対策も行われました。市内外からの炊出しや支援物資の提供、ボランティア活動にも支えられ、避難生活をおくることができました。

避難所の世話役になった人に大きな負担があったことなどから、日頃から協力体制を整えておく必要を感じたとの教訓もありました。

町内会・自主防災組織を中心に、助け合って避難生活を送りましょう

市職員や施設職員の指示に従い、町内会や自主防災組織の役員を中心に次の協力をお願いします。

1 避難所の開設・避難者の収容

建物の安全が確認されるまで、町内会ごとに建物の外で待機し、職員の指示に従い避難所に入ります。

2 初期の避難生活 ～避難勧告などが解除されるか、電気・水道の復旧まで～

避難人数の確認、避難者名簿の作成、簡易トイレの設置、市からの食料・物資の配布などについて、協力をお願いします。

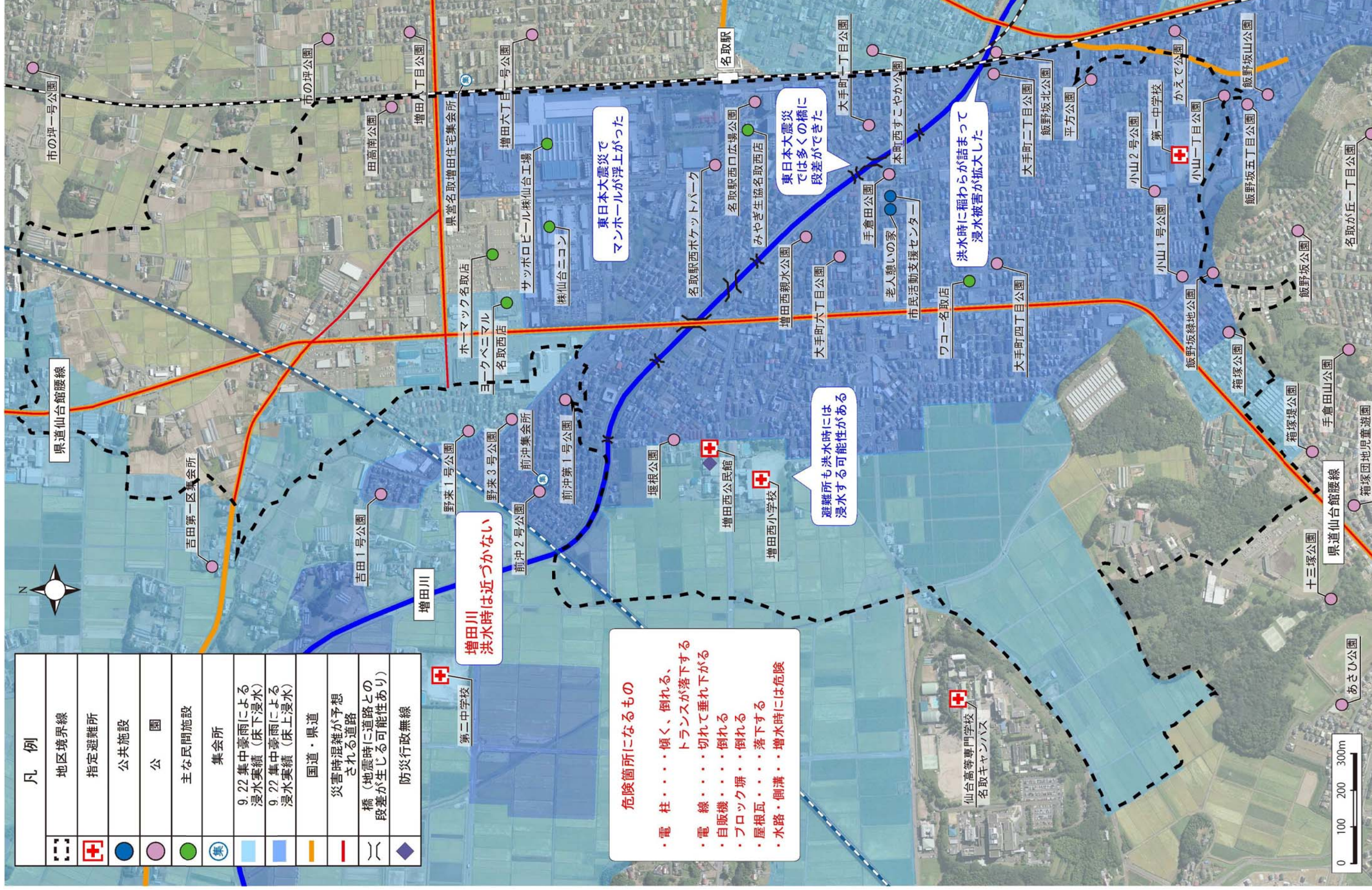
3 長期の避難生活

町内会などの単位で班を編成し、避難所自主運営組織を作り、役割分担を定め、避難生活を行います。



避難所では、高齢者や妊産婦などの災害時要支援者を思いやり、女性や子供に配慮してより良い環境を作りましょう。

7 増田西地区防災マップ



浸水範囲は平成6年9月22日豪雨災害の浸水実績です。これ以上の被害になることがあります。

8 平成 25～26 年の災害と教訓

全国で発生した災害から災害時の行動を考えましょう。

災 害	状 況	教 訓
秋田・岩手豪雨 (H25. 8. 9) (時間雨量 100mm 超)	秋田・岩手の各地で観測史上最大の雨量を記録し、洪水はん濫が発生、土石流などにより 8 人が亡くなった。	気象庁は、 局地的豪雨を正確に予測することは現行技術では難しい と会見
越谷市の竜巻 (H25. 9. 2) (風速 50～69m)	発達した積乱雲により竜巻が発生し、長さ 19km、幅 300m にわたり、家屋や屋根が吹き飛ばす、ガラスが飛び散るなどの被害が発生した。	埼玉県で全壊 12 棟、半壊 31 棟、重症 7 人、軽症 56 人⇒ 竜巻や積乱雲の前兆現象を見たら屋内に入る。
伊豆大島の土砂災害 (H25. 10. 16) (時間雨量 100mm 超)	台風 26 号により、伊豆大島で 1 時間に 100 mm 以上、24 時間で 824 mm の記録的な大雨となり、大規模な土砂災害が発生した。	大島町で、全壊 46 戸、死者・行方不明者 39 人⇒ 土砂災害から命を守るためには避難が必要
平成 26 年 2 月の大雪 (H26. 2. 14～16) (山梨県で観測史上最大の大雪)	前線を伴った低気圧が発達し、各地で大雪となり、9 県で 26 人が死亡、全国で重症 118 人、軽症 583 人の被害が発生した。120 年間 50cm 以上の雪が積もらなかった山梨県に 100cm 以上の雪が積もった。	死者は、倒壊した車庫等の下敷きで 7 人、屋外で 7 人、車内の一酸化炭素中毒等で 5 人、除雪事故で 4 人、上部からの落雪で 3 人⇒ 不要な外出を避ける。
南木曾町の土砂災害 (H26. 7. 9) (時間雨量 80mm)	局地的豪雨により、大雨・洪水警報、土砂災害警戒情報発表前に土砂災害が発生した。白い雨 (80mm 以上の雨) が降ったら、蛇がぬける (土石流が起きる) との石碑があった。	局地的豪雨では、警報が間に合わない場合がある⇒ 雨の降り方から自己判断が必要な場合もある。
四国地方の大雨 (H26. 7. 7～11) (累計雨量 1,000mm 超)	台風 11 号と前線により、四国から東海にかけて 600 mm を超える大雨となり、5 県で 6 人が亡くなった。 高知県では累計雨量が 1,000 mm を超えたが、死者はなかった。	川と海水浴場で 3 人、落雷で 1 人が亡くなった。 ⇒ 不要な外出を避ける。台風の常襲地帯では、風水害への備えが徹底している。
広島県の土砂災害 (H26. 8. 20) (時間雨量 100mm 超)	1 時間に 100mm を超える猛烈な雨により、土砂災害が発生し 74 人が亡くなった。	就寝中に予期せぬ猛烈な雨になることもある⇒ 雨音や雷から状況判断が必要
長野県北部地震 (H26. 11. 22) (最大震度 6 弱の直下地震)	22 時 8 分頃、長野県北部を震源とする地震が発生。白馬村で建物が全壊し、住民が閉じ込められたが、近隣住民の速やかな救助活動により、全員無事に救出された。	直下地震で建物が倒壊したときなど、 個人の力ではどうしようもないとき、隣近所、町内会などの共助が力を発揮する。

9 我が家の防災メモ

<家族の状況>

氏名	かかりつけの病院	携帯電話番号
生年月日	持病・常備薬	会社・学校等の名称
血液型		会社・学校等の電話番号
年 月 日 型 Rh +・-		
年 月 日 型 Rh +・-		
年 月 日 型 Rh +・-		
年 月 日 型 Rh +・-		
年 月 日 型 Rh +・-		
年 月 日 型 Rh +・-		
年 月 日 型 Rh +・-		
避難場所		
家族の集合場所		

増田西地区の避難場所

区分	名称	電話番号
指定避難所	増田西小学校	022-382-2546
	第一中学校	022-382-3321
	増田西公民館	022-384-0055
	第二中学校	022-382-8401
地域の 一時避難場所など	増田西 老人憩の家	—
	市民活動支援センター	—
		—

災害時の連絡先

区分	名称	電話番号
市役所	名取市役所	022-384-2111
警察 110	岩沼警察署	0223-22-4341
	増田交番	022-382-3010
消防 119	名取市消防本部	022-382-0242
	手倉田出張所	022-382-1204
名取市休日夜間急患センター		022-384-0001
災害伝言ダイヤル		171

親戚・知人などの連絡先

氏名	電話番号	備考

名取市総務部防災安全課

〒981-1292 名取市増田字柳田 80

電話 022-384-2111